

教え子を再び戦場に送るな

2~3面・全国教育のつどい、育休カフェ
4面・障害児学校より、書評



第436号
2018年
9月19日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています



文科省前 えがお署名提出集会

5年連続のプラス勧告も改定額は極めて低額

人事院は8月10日に、4月における国家公務員給与が「平均655円、0.16%」民間を下回っていたとして、一時金の0.05月引き上げと月例給改定の勧告報告をおこないました。5年連続のべア勧告は賃金改定を求める官民共同のねばり強いたたかいの反映ですが、その水準は極めて低額であり、公務労働者の生活改善にはほど遠く、不満な内容です。

中高年への配慮を欠く勧告

本県においては、連年にわたる賃金削減に加え退職手当の大幅な削減が

強行され、4月からは「給与制度の総合的見直し」による「現給保障」措置が終了し、中高年にとっては実質賃下げとなっています。勧告では到底損失額に及ばず、中高年への配慮を欠く勧告です。

初任給1500円、一時金0.05月

月例給較差分の配分は初任給の1500円引き上げを含め、若年層を

1000円程度引き上げるとし、その他については4000円の引き上げとなっています。再任用職員の賃金もこれに準じた改定を行うとしています。

一時金については年間支給月数440月を0.05月引き上げて445月とし、引き上げはすべて勤勉手当に充てるとしました。再任用についても初めて常勤と同様に0.05月引き上げられます。本年については、12月期の勤勉手当が0.90月↓0.95月となり、19年度以降6月期と12月期にそれぞれ0.025月ずつを充てるとしました。あわせて期末

文科省にえがお署名 9万1461筆を提出

7月25日、高教組も加入する全日本教職員組合(全教)はゆきとどいた教育を求める「2019年度文科省概算要求」に対する要請署名(えがお署名)の提出行動

7月25日、高教組も加入する全日本教職員組合(全教)はゆきとどいた教育を求める「2019年度文科省概算要求」に対する要請署名(えがお署名)の提出行動を行い、集約した署名9万1461筆を提出しました。全国から代表25名が参加、高教組も2名参加しました。

文科省前での行動では全国各地からの報告や訴えがあり、国の責任で30人学級、高校授業料無償化、給付型奨学金の拡充

決定を述べました。

決意を述べました。

決意を述べました。

決意を述べました。

決意を述べました。

愛知からは、小学生が熱中症で亡くなったことが大きく報道され、校外学習からもどった教室で体調が急変したと報告、もし教室にエアコンがあれば救えた命だったかもしれないと無念の思いを訴えました。また小学生を持つ父母からも、教室へのエアコン設置は切実で、同じ犠牲を出さないために国、自治体へ力を合わせて働きかけをしていきたいと決意を述べました。

集会の最後に、貧困と格差を拡大する教育政策を転換させ、切実な国民の教育要求を実現させようとして文科省に向けコール、隣接する財務省へも届く大きなアピールとなりました。

集会終了後、午後からは人事院勧告に向けた公務労働者の行動や民間労働者と連帯して要求実現に向けデモ行進、日比谷野外音楽堂での全体集会に参加、猛暑の中終日のアピール行動となりました。

交渉では、給与水準、諸手当改善、多忙解消などを求め、なかでも今年度実施されている「新たな人事評価制度」試行に関する十分な検証と現場からの意見集約をすること、19年度本格実施にこだわらないよう県教育委員会

交渉では、給与水準、諸手当改善、多忙解消などを求め、なかでも今年度実施されている「新たな人事評価制度」試行に関する十分な検証と現場からの意見集約をすること、19年度本格実施にこだわらないよう県教育委員会

65歳に段階的引き上げ、給与は7割

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

新たな人事評価制度試行の検証を十分に行なうこと

県人事委員長交渉

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

人事院勧告を受け、高教組は9月から人事委員会交渉を実施しています。9月4日の人事委員

視座

同じ映画を二回見てきました。二回目が方が楽しめました。最初、ホラー映画に

おびえていると、三十分ほどで終わり、その後、その映画がどのように誕生したかがわかるという構成。最後は笑いと感動、映画館を出ると、みんなと力を合わせてがんばろう、という気持ちになりました。制作費わずか300万円、出演者は無名俳優ばかりですが、口コミで評判が広がり、興行収入は15億円を超え、観客動員も100万人を超えたとか。まさに予想外のヒット。以下、ネタバレしないように書いていきます。映画をつくるには、様々なひとがそれぞれの立場で関わります。計画があり、準備に準備を重ね、いざ本番。冒頭の映画はノンストップ・ワンカット生中継という設定。いったん始めたら、カメラは止められません。もし、すべてが計画通り進んだら、この映画はおもしろくないどころか、つくられることさえなかったでしょう。現場では停止も後退も許されません。ハプニングあつてこそ現場。準備したはずのものが準備できてなかったり、いるはずの人がいなかったり、機械が壊れたり、と。ここで、腹を立ててもしかたありません。ピンチをチャンスに変えるべく、仲間と協力し、知恵を出しあい、前へ。あきらめたら、そこで試合終了ですから。すると、計画通りいかになくて、予想以上のものが産まれることもあるんです。思い通りに行かなくても、思いがけないことがあるのが人生ですから。そう、計画を立て、それが実行できたかどうかなど、仕事のほんの部分にすぎませんから。さ、二学期、不完全ながらも前へ、前へ!

みんなで21世紀の未来をつくる 教育のつどい

教育研究全国集会 2018 in 長野



8月17日から19日まで、長野市で「教育のつどい」が開催され、全国から2000人の教職員、父母、高校生や青年が集まり、7つのフォーラム、30の分科会で、語りあい、学びあいました。静岡からも、組合員だけでなく16人が参加しました。

長野市のホクト文化会館での全体集会は、現地実行委員会による「善光寺木遣り」による歓迎から始まりました。ジャーナリストの青木理さんの記念講演「憲法改正が教育をこわす」を受けて、長野から、高校生や青年教職員による朗読劇「こわしてはいけない」の熱演。

1933(昭和8)年、治安維持法のもと、子どもも現況に寄り添い教育を行っていた多くの教師や労働者が弾圧され、「教員赤化事件」と喧伝されました。以後長野県教育界は国策に積極的に協力、「満蒙開拓青少年義勇軍」を送り出し、「松代大本営」建設に協力。その反省から戦後は「学校憲法」や「学校平和宣言」を生徒と共に作り出すなど、民主主義を生かす活動に取り組んできました。

1933(昭和8)年、治安維持法のもと、子どもも現況に寄り添い教育を行っていた多くの教師や労働者が弾圧され、「教員赤化事件」と喧伝されました。以後長野県教育界は国策に積極的に協力、「満蒙開拓青少年義勇軍」を送り出し、「松代大本営」建設に協力。その反省から戦後は「学校憲法」や「学校平和宣言」を生徒と共に作り出すなど、民主主義を生かす活動に取り組んできました。



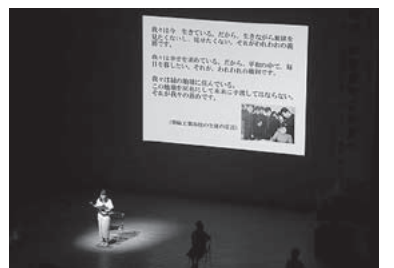
《参加者の感想》

戦前のファッショをひきつぐ改憲案

講演は二人の女性の質問に答える形の、肩のこらない形式でした。教育に関して、たとえ平和憲法をただ暗記させるだけの授業は、戦前の教育勅語を暗記させた教育と同じではないかという問題提起もありました。

必要なのは自分で育てる力を育てることだと。そのとおりだなあと思いました。講演のあと、開催地の長野の人たちが、戦前の県教育界を席巻したファッショの動きと県教育界の戦争責任とを、群読とスライドで明らかにし、そこから戦後の長野県教育を出発させたことを強調していました。また地元の山田にある無言館の窪島誠一郎氏の「こわしてはいけない」という詩の朗読もあり、いろいろ刺激を受けた集会でした。

ふだんはあまり憲法などには興味がないのですが、必要なのは自分で育てる力を育てることだと思いました。講演のあと、開催地の長野の人たちが、戦前の県教育界を席巻したファッショの動きと県教育界の戦争責任とを、群読とスライドで明らかにし、そこから戦後の長野県教育を出発させたことを強調していました。また地元の山田にある無言館の窪島誠一郎氏の「こわしてはいけない」という詩の朗読もあり、いろいろ刺激を受けた集会でした。



「訪問教育には〇〇がない」というレポートでは、訪問教員の集団が学校全体に提起をし、遠足や修学旅行への参加ができるようになった実践が報告されました。父母と協力して、子どもの願いを実現する取り組みの大切さを話し合いました。私のレポートは、ずっと寝転んでばかりいた子がPCウォーカーで歩けるまで発達した実践。子どもが内面に持つ様々な力が、教員や友達との交流によって少しずつ開かれていく。教職員が同じ方向を見ながら協力して授業を作り上げることが大切さをあらためて確認し合うことができました。

「障害の重い子の教育」分科会では、「一人でも寂しくなかった」という訪問教育高等部の実践。ひとりの生徒への在宅訪問授業でも、教員が複数で授業を担当。また、他の学部教職員を巻き込んだスクーリングや宿泊学習など、生徒に関わる大人が広がり、他の訪問生徒とも共同学習の場を作る中で、青年期らしい様々な経験を重ね、笑顔で卒業することができたという報告でした。

「訪問教育には〇〇がない」というレポートでは、訪問教員の集団が学校全体に提起をし、遠足や修学旅行への参加ができるようになった実践が報告されました。父母と協力して、子どもの願いを実現する取り組みの大切さを話し合いました。私のレポートは、ずっと寝転んでばかりいた子がPCウォーカーで歩けるまで発達した実践。子どもが内面に持つ様々な力が、教員や友達との交流によって少しずつ開かれていく。教職員が同じ方向を見ながら協力して授業を作り上げることが大切さをあらためて確認し合うことができました。

青木理さん 記念講演 「憲法改正」が教育をこわす!

要旨

民主主義とは一人ひとりが考え行動し勝ち取るもの

話がうまくないので、質問に答える形でお話しします。

①医学部受験での女性差別や国会議員が公然と「生産性がない」と言い放ち、権力が家族の在り方まで口を出すことに憤りを感じますが、青木さんはどうお考えですか。

医療現場は非常にブラックなので男社会の方が都合がいいという理屈らしいが、ひどいありやうに合せて男にゲタをはかせるのはおかしい。安倍首相の最大の問題は「人を見る目が無い」こと。杉田衆議院議員は

もちろん、文民統制の大きな稲田元防衛大臣など、ことごとく人選に失敗している。また、自民党の改憲草案を作った磯崎さんは「立憲主義を拒絶して聞いて聞かぬ」とツイート。知性の劣化を感じる。そんな人を側近にして改憲案をつくらせ、憲法を改正しようとしているなんて問題。

②森友・加計学園問題など教育を歪めようとする動きがありますが…

森友・加計学園問題で加計学園があまりテレビで取り上げられなかったのは面白みに欠けたから。その点、森友学園は籠池氏のキヤラや教育勅語の朗読などで話題性があがり、よく取り上げられたが、以前に「日本会

議」の取材をしていたため驚きはなかった。「日本会議」とは安倍政権の大きな支持層。その日本会議の中でも右寄りだった人が、現在、政権の中核に関わるようになっていく。教育勅語の朗読などは日本会議の発想による。森友問題によつて安倍政権やその周辺が目指している教育方針が可視化されたのではないか。

③マスメディアや教育に政治が介入してはいけないのでは?

マスメディアの役割とは「広く」「早く」「正確」に物事を伝えること。本来、右も左もない。今起っていることを国民に知らせ、警鐘を鳴らし続ける。森友・加計学園

問題はその一例。朝日新聞の従軍慰安婦に関する記事の誤報問題のとき、反日・売国、「国益を損ねた」などの批判もあったが、ジャーナリストが「国益」を唱えたらおしまい。委縮したり、政権に付度し、思うつぼ。国民に物事を正確に伝え、それを見た国民が何かしと声を上げ、結果いい方向に向かうようにすることがマスメディアの仕事。

④安倍政権による憲法改正の危険性とは?

戦前の文部省が作った「国体の本義」には、「日本国は天皇を主人とする天皇家族であり、その構成要素としてそれぞれの家族がある」と記載されている。自民党の

改憲草案はまさに同じ構造。世論調査では約6割が憲法改正に賛成だが、安倍政権下での憲法改正に賛成は4割。反対が上回る。千載遇の改憲のチャンスだが、国民投票で否決されたら二度と改憲はできなくなるという危機感を持つているようだ。

⑤若者へのメッセージを聞かせてください。

1990年代後半、特派員で韓国に住んでいた時、金大中(キム・デジュン)元大統領を取材する機会があった。そこで金氏に「日本は自分の力で民主主義を勝ち取ったことが一度もない」と指摘された。韓国は国民の力で軍事中心の政治から国民中心の政治に変えた成功体験がある。行動を起こせば政治は変えられる、そ

いう成功体験をした人が社会の中核にいるのは大きい。民主主義とは一人ひとりが考えて行動し勝ち取るものだと思う。

障害児教育分科会

特別支援教育分科会全体会の基調報告は、和歌山大学の山崎さん。生産性の有無という経済的な価値でしか人の価値を求めない今だからこそ、障害者権利条約を味方にして、子どもたちの実態を把握し、要求をつかみながら発達の可能性を待つ取り組みが大事であることと話をされました。鳥取大学の三木さんからは、学習指導要領が障害児まで国の政策に取り込もうとしている問題点が指摘されました。

書写・書教育分科会

右翼の右端にいた人が道の真ん中を堂々と歩くようになった、保守のジャーナリストが最近では左翼だと決めつけられ非難されるようになったと指摘するジャーナリストの青木理さんの話が印象的だった。質問する信州大学医学部の学生が、近年の若者は右翼・左翼などと偏ることを恐れる傾向がある」と問題提起すると、青木さんは、自分の意見を言うことを大事にしてほしいと返された。将来のことなど不安が多い今、考えが偏っていると恐れられることは不利になる恐れがあると心配してしまうのか。就職試験でも、自分がどのように働きたいかをアピールするのではなく、就職先の商品などに関連して答えねばならないと指導されるらしい。細かい商品のことなどより、自分が社会に果たしたい役割を自覚し、生き生きと働くことの方が重要ではないかと思うのだが…。



真田氏の松代城

イナスのイメージをもつことを心配するのではなく、歴史の事実として捉えてそれを作品にすることは大きな意味があると考える。

また、評価の基準を具体的に示して、自分の作品を自分自身で評価するという興味深い実践もあった。

後半に、私自身の悩みと課題を話す機会が与えられたので、書道パフォーマンスなど部活動の指導で生徒に相手にされない話をした。多くの先生が同じ悩みを抱えているようで、自分だけの問題ではないと感じて少し安心した。

終わりに、自分の書道活動と教育現場での活動は別世界であるとして切り離して考えたほうが

良いとアドバイスを頂いた。今後の活動の参考にしたいと思う。

外国語教育分科会

豊かな教材と素晴らしい実践の共有

小学校英語の教科化、検定試験に丸投げし入試制度が揺れ続ける大学入試等、今大きな変革期にある外国語教育の部会には、そんな中でも、多くの素晴らしい実践が全国から集まった。



二日間の討議のうち、一日目はもっぱら小学校英語の現状に話が集中した。専任の教師も、十分な環境もないままに見切りスタートされた小学校現場で、何ができるか、何をすべきか。「教師はできないことをやろうと

平和と国際連帯の教育分科会

人と関わり交流することが「平和の文化をつくる」

中学、高校の授業実践では、いかに全ての生徒に分かる喜びを持たせ、外国語を学ぶ楽しさを実感させる授業をつくるかに議論が集中する。そのために、やはり自主教材を作ることで、教材を創造的に扱う授業を行うことが大切で、それこそが生徒の

このころを揺り動かす授業となるべく多くの実践から伝わってくる。小学校から大学まで幅広く教員が集まって、実践を研究し、学び合う機会はこの「教育のつどい」の他にあまり例をみない。今年も豊かな教材や素晴らしい実践を多くの先生方と共有できたことが何より嬉しかった。



さ伝える試み」という美術教員の取り組みも。東日本大震災の津波の写真をもとに一枚の絵におこしていく営みの中で、惨状を体感するようになり、完成した自身の作品を見て、鳥肌がたち、絵の持つ力に圧倒されたという。絵画や立体造形、映画製作、水墨画などの視覚芸術表現は、誰もが興味を持ちやすく、平和について考える時を与えてくれる。被爆者の体験談を聞きながら、絵を制作するという広島市立基町高校者から受け継いでいくものなのだと感じた。悲しみにこたわり、一人一人の悲しみから全体の問題を考え、行動に移す。平和も歴史も私がつくるもの。「歴史学習の主役として生徒を育てる」ということの奥深さを思った。

主張

7月12日、文化庁主導の「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」第1回作成検討会議が開催されました。委員は全国の高文連、吹奏楽連盟などの代表と教育研究家の妹尾昌俊氏、日本部活動学会会長の長沼豊氏ほか10名。併せて資料「文化部活動の現状について」も公開。一部の文化部でも活動の過熱と大会の

文化部のあり方についても、一緒に考えましょう

増加指導教員の負担増が見られること、また平日の活動日数では高校文化部は平日2日以下が4割を超えること、生徒は競争より「楽しむ」ことを重視する傾向が

強いなど文化部特有の問題も指摘されています。また、その議事要旨には「こんなやり取りが。委員の一人が開口一番「大変悪者の吹奏楽連盟でございます」。続い

て「ガイドラインによってやりがいをもつてやっている私や生徒から吹奏楽を奪わないでほしい」という現場顧問の声を紹介。次に発言した静岡市教委指導主事は、

必要だとする立場と、そうした指摘を活動そのものの全否定と受け取る側の認識のギャップ。まずはここで冷静にならない限り、文化部も運動部も活動の「適正化」は

難しいでしょう。また、今後策定される国や県の「文化部ガイドライン」が、活動日数や形態が多様な文化部のどこに照準を合わせるのかなどの課題もあります。だからまずは皆さん落ち着いて。部活動そのものはもちろん、誰かを「悪者」にしたり「奪う」ことで解決するような問題ではないのですから。まずはテーブルについて、一緒に考えましょう。高教組はそのためにこそ「部活動アンケート」などのとりくみを行うのです。(伊豆総合 遠藤 寛)



信州善光寺参道



松代大本営 象山壕を見学

『育休復帰応援カフェ』

8月2日に今年度初めての、静岡高教組女性部主催「産育休復帰応援カフェ」を開催しました。台風の影響で本来の日程から延期になりましたが、産育休中の方4名が参加し、お子さんも交えたアットホームな会になりました。

今回は、産育休中に使える権利の話聞き、その後、参加者みんな不安なことや困っていること、復帰に向けて工夫していることをワークシヨップ形式で語り合いました。

権利の話では、部分休業や短時間勤務を使った場合のこと、1人目育休中に二人目を妊娠した場合の手続きのこと、育休の取得期間について等、多くの内容が話題になりました。

「復職の時期をどうしようか悩んでいる。」等々、復帰に向けて不安に思うことが多い現状を実感しました。また、工夫していることでは、「早起きの練習をしている。」「体力をつける為、子どもとスイミングに通おう

と考えている。」「職場の同僚と連絡をとる。」等があげられました。初めの試みということでも手探りでしたが、会を進めていくうちに参加者の方が笑顔になり、いきいきと語り合う姿に嬉しくなりました。



今後、毎年恒例行事として開催していけたらと考えています。内容も交流を中心に工夫し、産育休中の先生方が一人で悩んでしまうことのないよう取り組んでいきたいです。(富士特支 加藤 奈央)

青年層の参加が目立った 原水爆禁止世界大会



2018原水爆禁止世界大会は、昨年7月7日、国連で核兵器禁止条約が122か国の賛成で採択され、現在14か国が批准するなど、核兵器廃絶を求める国際世論の大きな高まりのなか、8月2日から8月9日まで広島をメインに行われました。広島大会には海外代表も含め6000人、長崎大会には1500人が参加し大きな成功を収めました。静岡からは、青年9名を含め、54名が参加しました。

印象的だった
高校生の報告
 今年は青年層の参加が目立ち、中でも高校生の報告は新鮮で、心が打たれました。地元基町高校の高校生は、被爆者の体験を聞きそれを絵画に描き、また十勝から参加した3人の高校生は、参加費用はカンパでまかなったと言います。活動の中で心の折れそうな時もあったが、多くの人のちの応援、支援で、困難な中で、国際署名の広がりを見えています。静岡県では15万筆を超え、前回署名枚数の2倍を超えています。高校生も取り組みをすすめています。ご協力をお願いします。

2018原水爆禁止世界大会は、昨年7月7日、国連で核兵器禁止条約が122か国の賛成で採択され、現在14か国が批准するなど、核兵器廃絶を求める国際世論の大きな高まりのなか、8月2日から8月9日まで広島をメインに行われました。広島大会には海外代表も含め6000人、長崎大会には1500人が参加し大きな成功を収めました。静岡からは、青年9名を含め、54名が参加しました。

展示するとりくみを続け、もここに参加できた報告、それぞれの思いを述べました。若い人たちの平和への純粋な思いと訴えは参加者の心にひびき、勇気を与えてくれました。

ヒバクシャ
国際署名の広がり
 被爆者の平均年齢は80歳を超え、核兵器のない世界の実現は被爆者の強い願いであり決意です。「ヒバクシャ国際署名」は全世界的に提起され、これまでになく広がりをみせています。

特別支援教育の現場から ⑥

学んでみんなで元気になろう会 三木裕和先生を囲んで

8月3日の夜、鳥取大学附属特別支援学校長の三木裕和先生(写真中央)をお招きして、「三木裕和先生のお話を聞いて、みんなで元気になろう会」を開催しました。急な呼びかけだったにもかかわらず、40人もの参加者が集まり、会場のお店(鉄板家さきり)の浜北区)の中は通路にまで臨時の椅子をぎっしりと並べて座るほどでした。

1時間ほどの講演を聞いた後は、おいしい料理を食べながら参加者同士で話をしたり、三木先生にテーブルを回っていただき、学校で担当している子どもや普段悩んでいることについて聞いてもらったりする時間になりました。参加された先生方からは、「教育は結果よりも過程が大切」という言葉がとても印象的でした。この言葉を胸に子どもとじっくり関わっていきたくと思います。「心の片隅にずっ」とありながらも、言語化できずにもやもやしていたものを三木先生に言



葉にしてみたら「やっばりそうなんだ」と、うれしい気持ちになりました。「困難な現場に向き合い続けるそのものが専門性」という言葉に勇気をもらいました。「誘って来てくれてありがとう」と言っていました。「すべてが心にストンと落ちる話でした。早く子どもに会いたくなりました。など、熱い思いの感想をいただきました。ぜひ、来年の夏もまた、このような元気の出る楽しい講演会+食事会を開きたいと思っています。(浜北特支 榊原あゆみ)

話題の本を読む ④

「面従腹背」 前川喜平著 毎日新聞出版

加計問題で多くの人の目に曝された元文科事務次官前川喜平氏。元職とはいえ、政府見解を真っ向から否定する発言には驚いた。国会の参考人招致で、総理のご意向が「あったことをなかつたことにはできない」と。加計問題とは、岡山理科大学に、52年間も新設が

なかつた獣医学部が新設されることをめぐり騒動。開校は国家戦略特区に指定された今治市。今治市の特区指定の理由は不明。加計学園獣医学部新設が先にあり、そのための特区ということだろう。許可の動きに獣医学部や文科省は抵抗。が、「ご意向」という圧力に文科省は屈服する。学部規模もこれまで16大学930人定員に対し、同大は200人。前川氏はこの本の中で、組織の中にある以上、



不合理な命令でも、面従せざるを得ない。しかし、自分の考えは失わず、できる範囲でその考えを政策に活かす。これが腹背。そんな内容を、具体的な経験と踏まえて語っている。例えば、朝鮮初級学校卒業生問題。文科省は、朝鮮学校卒業生の中学校に入学を認めてこなかった。それに対し参院のある調査会で、福島みずほ議員の改善要求を受け、担当審議官だった前川氏は担当課が作成した前例通りの答弁はせず、自分の言葉で答えたという。

各専門部の 学習交流集会報告

学校現業職員部

現業職員をめぐる情勢や課題を学習、運動を交流する全国研究会が7月21日、22日に熱海で開催され、全国から50人が参加、静岡から西村現業部長と遠藤執行委員が参加しました。

なかでも政府がすすめる「トップランナー方式」は民間委託や非常勤化で、経費が削減されている分を交付税の算定から減額するもので、3年前から導入され、これまでに1387億円が削減されています。全体会では「公務員の働き方に係る政策の問題点」と題する講演。公務員の非正規化、民間委託による公共サービスの質の低下を止める必要があると問題提起をうけ、各分科会で、実態の報告や課題の共有、今後のとりくみに関して熱心な討議が行われました。

平成26年に学校図書館法が改正され学校司書の配置が義務化されています。残念ながら本県では他県ではどうなのか関心があり、大阪での学習集会に参加しました。高等学校には専任で学校司書を配置するため、12学級以上の高校には事務職員が1名加配されています。これを守っているかどうか、また12学級未満の高等学校に何らかの形で学校司書に準ずる職員配置がされているのか、静岡県のように学校司書の配置が遅れている教育委員会に対しどのような運動をして、どのような成果を出しているのか、学校司書の実践が生徒にどのような影響を与えているのか大変勉強になりました。

図書館職員部

本県でも、現状の問題点を指摘し、学校図書館法に則った専門・専任・正規の学校司書の配置を強く求めていきたいと考えています。(天竜高校春野校舎 山下浩治)

定通部

7月27日から29日にかけて大阪で開かれた定通部全国学習交流集会に参加しました。今回のテーマの一つは、スクールソーシャルワーカー(SSW)。いじめや不登校、また虐待・貧困問題への支援のために、定時制高校を中心に配置されてきています。生徒の相談相手になりつつ学校外の諸機関を媒介する役目を持っています。

定時制通信制には社会的問題が集中して現れ、その度合いが強まっています。大変ではありませんが、少人数ゆえの温かみや、熱心な教師によって救われる面も多々あります。定時制・通信制が大事な役割を担っていることをあらためて実感できました。(静岡中央 加藤高志)



7月27日から29日にかけて大阪で開かれた定通部全国学習交流集会に参加しました。今回のテーマの一つは、スクールソーシャルワーカー(SSW)。いじめや不登校、また虐待・貧困問題への支援のために、定時制高校を中心に配置されてきています。生徒の相談相手になりつつ学校外の諸機関を媒介する役目を持っています。

定時制通信制には社会的問題が集中して現れ、その度合いが強まっています。大変ではありませんが、少人数ゆえの温かみや、熱心な教師によって救われる面も多々あります。定時制・通信制が大事な役割を担っていることをあらためて実感できました。(静岡中央 加藤高志)

定時制通信制には社会的問題が集中して現れ、その度合いが強まっています。大変ではありませんが、少人数ゆえの温かみや、熱心な教師によって救われる面も多々あります。定時制・通信制が大事な役割を担っていることをあらためて実感できました。(静岡中央 加藤高志)